

学園へのご寄付として、昨年度は総額で3,670,000円をご支援いただきました。皆様の温かいご支援に感謝いたしますとともに厚く御礼申し上げます。お寄せいただきました寄付金は使途区分ごとに本学園が設置する千里金蘭大学、金蘭会高等学校・中学校及び金蘭会保育園の奨学資金、課外活動資金、施設・設備資金、研究支援資金に充当させていただきます。

令和5(2023)年に千里金蘭大学は創立20周年、令和7(2025)年に学園は創立120周年を迎えます。これまでの基本理念を継

承しつつ、時代の要請にこたえ、生涯にわたる教育機関となるよう、更なる進化を続けていく所存です。

昨今の厳しい経済情勢の折柄、誠に心苦しいお願いとは存じますが、引き続き、ご賛同を賜りますようお願い申し上げます。

金蘭会学園 法人事務局 経理・財務部
TEL.06-6872-7703 FAX.06-6872-7707
本学園ホームページ「ご寄付のお願い」URL
<https://www.kinran.ac.jp/hojin/contribution/>

年間スケジュール(前期)

2022					
4月 1日(金)	令和4(2022)年度入学式	6月 12日(日)	オープンキャンパス	8月 8日(月)	夏季一斉休業(8/8~8/10,12)
4月 4日(月)	オリエンテーション	7月 17日(日)	オープンキャンパス	14日(日)	オープンキャンパス
5月 5日(火)	オリエンテーション	22日(金)	前期最終授業日	22日(月)	前期成績Web発表日(予定)
6日(水)	前期授業開始	24日(日)	オープンキャンパス	9月 4日(日)	総合型選抜チャレンジAO入試 I期
24日(日)	オープンキャンパス	25日(月)	授業予備期間(7/25~7/29)	7日(水)	保護者宛成績発送日(予定)
29日(金・祝)	祝日授業日	8月 1日(月)	専門科目、保育、教職科目調整期間(8/1~8/3)	21日(水)	後期授業開始
5月 2日(月)	学園創立記念日(117周年) 祝日授業日				
3日(火)	祝日授業日				
29日(日)	オープンキャンパス				

※4月中旬現在の予定です。新型コロナウイルス感染拡大状況を踏まえ、スケジュールが変更となる場合があります。大学ホームページ等で適宜お知らせいたしますので予めご了承くださいませようお願いいたします。



私の成長、きっとだれかのために。



- 01 千里金蘭大学後援会からのご挨拶
学長メッセージ
- 02-04 学科 MESSAGE
- 05 ゼミ探訪 vol.11
- 06 バレーボール部
- 07-08 部局 MESSAGE
- 09 NEWS
- 10 新任教員紹介
- 11 学園へのご寄付・ご支援について
年間スケジュール

編集後記

新年度が始まり、キャンパスに賑やかな声に戻ってきました。新入生の皆さんは大学生活にも少し慣れたところでしょうか。今年度より、学修・キャリア総合支援センターが開設しました。このセンターは、学生の皆さんが学修の進め方やパソコンの操作がわからないとき、自分の進路に迷ったときなどにサポートする体制を整えています。いつでも気軽に3号館3階を訪ねてみてください。

学長メッセージ



千里金蘭大学 学長
島崎 靖久

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。貴女方は約2年もの間、コロナ感染症対策のために、貴重な高校生活をこれまでと異なる様式で過ごさざるを得なかったと思いますが、それでも、自らの啓発のために種々の努力を重ねてこられたことと思います。本学ではこれまで、対面を重視した授業を積極的に展開してきました。キャンパスとは、学生の皆さんにとって、さまざまな人に出会い、刺激を受け、議論して、これまでにない経験をする中で成長できるこのうえない場です。感染防止対策を継続のうえ、今後も対面重視の方針で授業を実施していきます。

本学での学びの姿勢は、入学式でもお伝えしたように、「自ら考え、自ら学び、自ら育つ」です。この姿勢は貴女方が一人の人格として育つには必要なことです。すなわち、高校までは、すでに答えの解っていることを知ることが学びでしたが、大学では未知の世界の探求が求められます。詳細な知識と多面的な観察から、出来事をより正確に知ろうとする姿勢が必要となってきます。これまでの知識を超えて、真の姿を知るには、何らかの挑戦が必要となります。当然、挑戦する限り失敗をとまなうこともあるでしょう。真剣に、そして、取り組みが増えるほど失敗は増えるかもしれませんが、その中からより大切なことを知ることができるはずで、現実の出来事から目を逸らさずに、懸命に取り組んでもらいたいと思っています。

本学では、毎年、学生の皆さんの教育・研究環境の充実のために、施設の改修などを行っています。昨年度は、5号館3階の調理実習室の改修工事を実施し、3月末には、表紙の写真のように新しく生まれ変わった設備となりました。また、2号館、3号館、5号館の主要教室などを中心に、無線LAN環境整備工事を行い、こちらも3月末に完了しました。今年度も、3号館の一部フロアの女性用トイレの改修工事を予定しているなど、常に大学の教育等の環境の改善・充実対策を進めていきます。

さらに、この4月からは、大学院看護学研究科修士課程を開設しました。大学の使命の一つである研究養成が形ある姿となります。また、2023年4月から、現在の生活科学部食物栄養学科及び児童教育学科を改組し、それぞれ栄養学部栄養学科、教育学部教育学科として体制を新たに組織することを予定しています。当然のことながら、現在の学科体制のもと、皆さんへの教育カリキュラム等の維持には万全を尽くしていますので、安心していただきたいと思ひます。

千里金蘭大学という学びのキャンパスを十分活用し、充実した学生生活を楽しんでください。

千里金蘭大学後援会からのご挨拶

新入生の皆さん、そして保護者の皆さま、千里金蘭大学へのご入学、まことにおめでとうございます。また、在学生の保護者の皆さまには、日ごろより後援会活動へのご理解とご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

千里金蘭大学後援会は、保護者により組織され、学生支援を目的として、教育内容の強化、課外活動の充実、学生生活環境の整備などに向け、大学経営の財政的基盤の充実を保護者同士で支え合うことを主な役割としており、今年で設立8年目を迎えます。

今年度も、全保護者のご入会をいただくことができ、感謝申し上げます。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、例

年のような活動ができなくなり、総会の書面議決開催や保護者対象就職セミナーの中止などを余儀なくされた一方で、後援会として学生の皆さんが安心して学生生活を送ることができるよう、実習用の消毒液や学内食堂のパーティー、動画視聴用ヘッドフォン等を購入し、コロナ禍での学びを継続するための環境整備を行いました。

今後も役員一同、保護者の皆さまとともに学生の皆さんが安心して学生生活を送ることができる環境づくりに尽力して参る所存でございます。

引き続き、ご支援・ご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和4(2022)年4月1日
千里金蘭大学 後援会会長
竹下 貴子

<https://www.kinran.ac.jp/kouenkai/>
本学ホームページに後援会ページを開設しておりますので、ぜひご覧ください。

学科 MESSAGE

食物栄養学科

学科長メッセージ

食物栄養学科長
長井 薫

新たな環境で夢に向かった成長を。

新入生の皆さん、保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。在校生の皆さんも、新学年への期待を胸に、新年度を迎えていることと思います。保護者の皆様におかれましては、日頃よりご支援頂き深く感謝いたします。一昨年度の不安定な状況がまだ続いておりますが、改善の兆しも見えておりますので、皆で協力し、前向きに進んでいければと思います。

食物栄養学科では、管理栄養士をめざす学習に加え、実践ゼミにおける食に関するコンテスト参加や商品開発につながる自由な発想による取り組み、作物栽培の取り組み、食に関する国際的な視点を持つことを目指した国際栄養の取り組みなどの幅広い体験の場を提供します。

学生の皆さんには、さまざまな興味を持ったことに積極的に挑戦し、幅広い知識と経験を得る学生生活を送ることを期待します。

学生の活動実績

学生ビジネスプラン コンテスト



実践ゼミの一環として、2年生の学生7名がチーム「KINRANガール」として吹田産業フェア推進協議会主催の「吹田産業フェアオンライン2021学生ビジネスプランコンテスト」に参加しました。本学のある北千里のロケーションを活かし、地域・学生・企業が交流できる「ものづくり体験カフェ」を提案し、審査員の方々から高評価を受けました。

環境負荷低減と健康効果を 目指した商品開発



実践ゼミの一環として、2年生の学生4名が吹田市のベーカリーであるラパンと共同し、商品開発のプロジェクトに参加しています。昨年度は、国内で大量の産業廃棄物となっているビールの絞り粕からお菓子が作れないかというプロジェクトに参加し、「ビール粕にあうフレーバーの探索」や「食物繊維の食感を低減する工夫」などの点に注目して取り組みました。廃棄物を減らすことによる環境負荷の低減をめざして開発を継続しています。

環境改善 ジビエ料理の普及



実践ゼミの一環として、2年生の学生6名が、徳島大学との連携でジビエ料理の開発、普及による野生鳥獣被害の低減をめざした取り組みを行いました。近畿地方においても、農村では野生鳥獣による被害などが問題になっています。一方、人里に鹿や猪が現れ、人に被害を与える事故も起こっています。鹿肉や猪肉は栄養価的に優れた面もあり、食べて環境問題を低減することをめざして、鹿肉や猪肉を用いたメニューを試作しました。

学科の願い



「食」を通じて人を笑顔にし、社会に貢献したい。

家族や親しい人たちの楽しい食卓、病気の時に元気を与えてくれる食事、子どもの成長を考えた給食など。「おいしい」の笑顔の裏には、「食」に対する繊細な心づかいと、確かな知識と技術があることはあまり知られていないのではないのでしょうか。生活習慣病の増加、超高齢社会など、健康に対するさまざまな課題を抱える日本では、食事指導や栄養教育、食育などの「正しい食と栄養の知識」をもった、みんなに寄り添う管理栄養士の役割が一層重要となっています。千里金蘭大学食物栄養学科では、「食」を通じて人を笑顔にしたい、社会に貢献したいと願う管理栄養士、「キラリ★サポーター」を育てます。

児童教育学科

学科長メッセージ

児童教育学科長
島 善信

保育・教育のプロへの第一歩です。

新入生並びに保護者の皆さま、ご入学おめでとうございます。心から歓迎いたします。新たなキャンパスライフへの希望にワクワクされているみなさんにメッセージを送ります。

1つ、仲間と協力し合って活動すること、一人でじっくりと考えを深めることへのチャレンジです。愉しさと充実感を味わい、新しい自分を見つけ創ってください。2つ、子どもたちとの触れあひからの学び取りです。金蘭おやこクラブをはじめ、保育所や幼稚園、小学校でたくさんの子どもと出会い成長していきましょう。3つ、オープン・マインドです。嬉しいことや感動はともに分かち合い、悩みや辛さも自分だけで抱え込まないでください。「助けて」は、弱音でも恥でもありません。私たち教員の心の窓はいつもみなさんに開かれています。

さあ、子どもとともに成長できる保育・教育のプロへと、4年間の羽ばたきを始めましょう。皆さんの夢の実現をめざして、私たちは全力でサポートします。

学生の活動実績

手作り人形劇



2年生の保育ゼミでは、「人形劇」に取り組みました。プロの人形劇演者をお招きし、人形劇について学ぶところからスタートです。自分たちで台本を作成し、どのような人形や背景を作るのかを話し合い、準備を進めます。人形を動かすことの難しさを実感し、試行錯誤しながら完成させました。最後におやこクラブの子どもたちの前で実演しました。「私もやる～」と舞台裏をのぞき込む子どもさんの飛び入りにドキドキしながらも、とても学びの多い充実した時間となりました。

ゼミの協働を通して保・大連携で音楽会！



児童学応用ゼミ（音楽）では、造形ゼミと協働し、2021年12月に金蘭会保育園においてクリスマス音楽会に出演しました。音楽ゼミでは演奏のみならず、企画・運営も受講生が行います。造形ゼミメンバーに譜面カバーや装飾等を依頼し、園児たちが、見て聴いて楽しめる音楽会になるよう創意工夫しました。当日の演奏では、ジブリをテーマに、手遊びや合唱、合奏などを行いました。園児全員が真剣に聴き、楽しむ姿が見られました。

「地域」のなかの大学での学び



主に1年生が受講する「子ども地域活動」では、子ども食堂やプレイパークを題材にして、地域社会で子どもがどう育っているか、体験的に学んできました。大学近辺のフィールドワークも行い、1年間の学びの集大成として、北千里駅近くで建設中の「まちなかりビング北千里」の活用方法について、ポスターセッションを行いました。「地域」と向き合い続けることで、自分たちが育ってきた「地域」についても、意義や役割を考えるきっかけになっているようでした。

学科の願い



子ども一人ひとりと向き合い、子どもの可能性を引きだします。

子ども支援のスペシャリスト育成をめざす千里金蘭大学児童教育学科では、早期からの現場体験を重視、「金蘭おやこクラブ」や「子どもインターンシップ」など、親子とふれあえるカリキュラムが充実しています。高いスキルを持った先生になることに留まらず、子ども一人ひとりと向き合い、理解し、可能性を引き出す。子どもたちのきらりと光る瞬間を支える「きらり先生」を育てます。

看護学科

学科長メッセージ

看護学部兼学科長
藤田 俱子

自らが積極的に学び、友人とともに貴重な体験をしてほしい。

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。在学生の皆さん進級おめでとうございます。寒かった季節も過ぎていつの間にか暖かくなり、新しい季節がやってきました。昨年度は感染対策により一部オンライン授業となり、物足りなさを感じた方も多いのではないかと思います。看護学科ではできるだけ対面で実施する方が効果的な授業が多く、可能な限り感染対策を講じながら進めて参ります。対面授業で教員に質問し、級友と触れ合って大学生活をより充実したものにしてください。そして、大学での学修で大切なのは学生が自ら学ぶ姿勢です。また、友人とともに探求し学修する体験が何のものにも代えがたい経験であったと気が付くときが、今後来ると思います。新年度が始まった今から、積極的に取り組んでほしいと願っています。

学生の活動実績

在宅看護援助論演習風景



3年生の看護専門科目である在宅看護援助論演習で、看護過程の展開と同じ事例を用いて、事例に必要な福祉用具を学生がグループで協力して作成し、展示して発表しました。生活する上でどのような難しさを解消するためのどのような福祉用具であるかの説明とともに、福祉用具を展示し、それらを学生が確認し、評価しています。事例の特徴を捉えて、更衣の際に使用する自助具や化粧をする際に使用する自助具、調理をする際に使用する自助具などバラエティに富んだ福祉用具が展示されました。

看護ゼミナール発表会風景



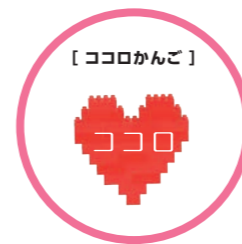
看護ゼミナールI～IIIを履修した1年生から3年生が発表会を行いました。スライド等を作成し、どのような社会活動に参加し、どのような学びを得たのかを発表します。1年間の活動を通して、たくさんの学びを得ることができました。2022年度は、1年生から4年生が看護ゼミナールを履修し、発表することになります。楽しみです。

助産師教育課程「新生児蘇生法(NCPR)講習」の受講風景



※写真は2020年度のものです
本学では助産師教育課程の4年生7名全員が新生児蘇生法(NCPR)の専門(A)コースを受講しています。新生児蘇生法委員会認定のインストラクターから5時間の講習と筆記試験により認定証が授与されます。「出生とは、「一生で、最も危険な瞬間」から始まった講習会。専門(A)コースは二次、三次周産期医療機関の医師や新生児蘇生に携わる専門性の高い助産師、看護師を対象とした講習です。新生児の元気な産声のために必死で取り組みました。講習後の感想では、「実際の現場でも、人工呼吸を実施して蘇生ができそう」との感想が聞かれました。

学科の願い



人として、女性としてココロを感じられるように。

プロの看護師に求められるものは、知識や技術だけではありません。何よりもまず、どんな患者さまのココロにも寄り添えること。私たちは、その力を「ココロかんど」と名付けました。千里金蘭大学看護学部では、4年間を通して「ココロかんど」のできる人を育てます。資格のためだけでなく、看護師である前に、人として、女性として、ココロを感じられるように。「あなたがいないと困るから。」と言われる女性を育てることが私たちの願いです。

Seminar
ゼミ探訪 vol.1
看護学科
慢性看護学ゼミ

慢性疾患とともに生きる 人々を理解する

慢性看護学ゼミの紹介をさせていただきます。慢性看護学ゼミでは、慢性疾患とともに生きる人々が、その人らしく生活できるようサポートするために、研究を通して対象者を理解する方法や看護実践について学びます。担当教員は、中尾に加え、石井あゆみ助教、隍智子助教の3名で運営をしています。慢性看護学ゼミに所属するゼミ生の研究テーマは、糖尿病患者、脳卒中患者、がん患者など慢性疾患患者を対象にしたセルフケア支援に関するもの、エンド・オブ・ライフケアに関するものが多いです。また、看護学生や新人看護師の教育に関するテーマを選択する学生さんもおられ、実習や自身の体験から、探求したいテーマを見つけ、研究に取り組んでいます。

2021年度は、9名の学生が所属し、新型コロナウイルス感染症の影響で、遠隔形式でのゼミを取り入れながら行いました。コメントをいただいた山本さんは、糖尿病のフットケアに興味を持たれ、特に看護学生にどのような教育が行われているのかについて実態調査を計画しました。研究計画書作成にあたり、先行研究を調べることはもちろんですが、本学の3年生に実施したフットケア演習に学生アシスタントとして参加され、フットケア教育の体験を研究につなげていました。また、和泉さんは、「医療従事者との関わりの中で生まれる糖尿病患者のスティグマ」をテーマに、糖尿病関連団体のアドボカシー活動も含めて調べ、患者の状況を理解するとともに、看護師の患者に関わる姿勢について学ばれていました。

このように、学生さんたちは、研究を通して慢性疾患患者について知り、将来どのように関わっていくか、どのような看護師になりたいか考える機会を得ています。



中尾 友美 教授



student's message

ゼミ生メッセージ

実習や演習により糖尿病患者の予防的ケアの重要性を学んだことから、この経験をより深めたいと思い糖尿病患者のフットケアに焦点を当て、看護研究に取り組みました。研究を進めていくと困難に直面することもありましたが、先生方や学生からの助言で解決することができました。また、多角的な視点から捉えることができ、さらに研究を深めることができました。このように看護研究を通して、自分自身の成長に繋げることができました。

山本 心緒 さん

私は医療従事者との関わりの中で生まれる糖尿病スティグマを研究しました。テーマを選んだ理由は糖尿病である祖母の「先生に叱られちゃうからちゃんとしないとね」という発言が気になったからです。この研究を通し糖尿病をもつ方々の具体的な生きづらさや苦痛を知ることができました。取り組み状況としてはオンラインでの発表や担当教員との面接を通しながら7月半ばごろにテーマを決め、9月末ごろに計画書やインタビューガイドなどを記述し終えました。

和泉 穂乃香 さん

CLUB Activities

バレーボール部



クラブの活動内容

2021年11月29日～12月5日に開催された、第68回秩父宮妃賜杯全日本バレーボール女子選手権大会・ミキブルーンスーパーカレッジバレー2021において、本学バレーボール部が5年ぶりにベスト8入りの快挙を成し遂げました。関西勢では唯一のベスト8入りです。

- 1回戦
○千里金蘭大学 3-1 広島文化学園大学(中国学連3位)
- 2回戦
○千里金蘭大学 3-1 大東文化大学(関東学連12位)
- 3回戦
○千里金蘭大学 3-2 東京女子体育大学(関東学連6位)
- 4回戦
×千里金蘭大学 1-3 東海大学(関東学連2位)



学修・キャリア総合支援センター

センター長 岩谷 智

学修・キャリア総合支援センターを開設しました

「学修・キャリア総合支援センター」という新しい組織ができました。この名称からどのような印象を受けますか。まず「学習」と「学修」の違いについて。学習は授業を通じて学問を習うこと。学修は事前の準備、事後の振り返りを通じて学問を理解し身につけること。千里金蘭大学ではほとんどの学生がきちんと授業に出席します。これはすばらしく良い伝統です。しかし伝統は不変の実体ではありません。伝統と対話しながら、それを問い直し、新たな現在を形作ることで、伝統をさらに紡いでいく—その連環こそが大学のエネルギーになります。エネルギーは学生の学修活動から生まれます。図書館で調べ物をするによって。実習・実験室で「手順」の復習をすることによって。情報教室でプレゼンテーションの準備をすることによって。学外実習で学んだ

ことを大学に成果として持ち帰ることによって。

「キャリア」について。大学は就職予備校ではありません。もちろん卒業時に進路が決まっていることはとても重要です。しかしキャリアは卒業時に完結するようなものではありません。キャリアは「走路」を意味します。「将来たどるべき道」という意味でもあります。「授業で習う」ことが一生続くわけではありません。大学の4年間は、学んだことを理解し身につける作業をしつつ、その学んだことを社会に還元するための準備期間でもあります。私たちのセンターはそうした「キャリア＝走路」作りの基盤となる「学修」を総合的にサポートするための組織です。3号館3階にあり、「教職支援室」も併設されています。いつでも足を運んでください。



研究推進・社会連携センター

センター長 鎌田 洋一

「教育・研究シーズ集」、 「吹田市民大学講座」について

この度、本学在籍中の各教員が現在実行、また今後実施しようとしている教育と研究のコンテンツを集積しました「教育・研究シーズ集」を発行いたしました。

「教育・研究シーズ集」は「持続可能な開発目標 (SDGs)」と結び付け、本学の知的資産として学外に発信し、各種企業や行政機関との連携を推進することを目的としており、本学教員と教育や研究の分野で連携する際の一助としていただけるよう作成したものです。

また、「生涯学習吹田市民大学 千里金蘭大学キャンパス講座」を地域の高等教育機関として、本学で取り組んでいる教育・研究成果を公開し、生涯教育の場を提供する目的で、コロナ禍の中ではありましたが感染のピークが一時的に収まった時期を見計らい、2021年11月に、客席の着席間隔を設けるなどの感染対策を行い、対面で開催することができました。



アドミッションセンター

学生の皆さまとともに

学生の皆さま、いつもオープンキャンパスの運営にご協力いただきまして、ありがとうございます。皆さまのお力添えのおかげで、来場者にとって魅力あるオープンキャンパスを開催できています。来場者からは「案内してくれた学生さんがとても優しくお話してくださった。」「案内してくれた方や、体験を一緒にしてくださった方が優しく色々なことを教えてくれて楽しかった。」などの声をいただいています。

2022年度も感染症対策を実施しながら、運営してまいります。引き続き、学生の皆さまのご協力をお願い申し上げます。



附属図書館

附属図書館長 登喜 和江

図書館に新コーナーを開設しました

学長推薦図書の高評に気をよくして、「3学科教員からのお勧め書籍コーナー」を開設いたしました。

開設準備期間の3月末～5月は、図書館長お勧め書籍として、アカデミックな研究書でも専門書でもなく、「漫画本」「はたらく細胞BLACK」を取り上げました。擬人化された細胞たちの悲痛な叫び「大人の身体はブラック企業」は、身につまされます。健康的な生活を送っている学生にも自身の身体が愛おしくなる1冊です。定期的に変わる先生方の一押しのコーナーを覗いてみてください。いつもと違う出会いと発見が皆さんを待っています。



教学センター

さまざまなサポートについて

学生の皆さんが安心して学生生活を送ることができるように、さまざまなサポートを提供しています。

奨学金について

経済的理由により学業の継続が困難な学生に対し、学内外の様々な奨学金の情報提供を行っています。奨学金募集や申込書類についての案内は、掲示などを通じて行います。

カウンセリングルームについて

勉学のことや生活のことなど、心や身体の悩みをカウンセラーが対応します。利用には予約が必要ですので、健康管理室で直接予約、もしくは電話・メールで予約をしてください。

[予約受付]

- 場所
健康管理室 (3号館2階)
- 電話
06-6872-7209
- メール
c-room@cs.kinran.ac.jp
- 受付時間 (授業期間中)
月～金曜日 9:00～17:50





令和3(2021)年度 学位授与式報告

3月15日(火)に、佐藤記念講堂において令和3(2021)年度学位授与式が執り行われました。始めに、食物栄養学科69名、児童教育学科58名、看護学科104名、計231名の卒業生を代表して各学科の総代が登壇し、島崎学長から学位記が授与されました。

続いて、4年間を通じて最も成績が優秀であった学生に与えられる「商議員賞」、学業を含めスポーツや社会貢献に優れた活動に取り組んだ学生に対して与えられる「佐藤賞」の授与が行われました。関係団体各賞・記念品の授与は右記のとおりです。

島崎学長からの式辞に続いて、門出の誓いとして、各学科の代表から、4年間学生生活を支えていただいた方々への感謝の気持ちと今後の抱負が述べられました。

新型コロナウイルス感染症拡大のため、規模を縮小しての開催となった学位授与式でしたが、保護者の皆様および卒業生の皆様のご協力により、無事終了することができました。卒業生の皆さん、この度はご卒業おめでとうございます。

皆さんの今後のご活躍を、本学教職員一同祈念いたしております。

学科	食物栄養学科	児童教育学科	看護学科
総代・商議員賞	高萩 なな子 さん	坂本 和希 さん	寛紀 菜 さん
佐藤賞	古武 花菜 さん	井手上 芽生 さん	妹背 美香 さん
関係団体各賞授与	下野 由貴子 さん (全国栄養士養成施設協会) 森 有彩 さん (日本フードスペシャリスト協会)	奥松 風花 さん (全国保育士養成協議会会長賞)	勝村 実和 さん (日本私立看護系大学協会) 佐伯 晴菜 さん (大阪府看護協会会長賞)
門出の誓い	小柳 文音 さん	南 優衣 さん	塩谷 花梨 さん



令和4(2022)年度入学式報告

令和4(2022)年度入学式が4月1日(金)に佐藤記念講堂で執り行われました。

食物栄養学科59名、児童教育学科37名、看護学科100名、計196名の新入生が、千里金蘭大学学生としての第一歩を踏み出しました。厳粛な雰囲気の中で式が挙行され、食物栄養学科・細井 香凛さん、児童教育学科・榎本 琉菜さん、看護学科・竹田 絢海さんによる新入生代表宣誓が行われました。

続いて学長による入学許可宣言、学長式辞があり、新入生たちは改めて気持ちを引き締めている様子でした。今年度の入学式は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、保護者の方々および関係者の方々のご臨席を見合わせていただき、縮小しての開催となりましたが、当日は天候に恵まれ、桜も満開を迎える中、キャンパス内では新入生の晴れやかな笑顔があふれました。

千里金蘭大学に入学されました新入生の皆さん、ご家族の皆様、おめでとうございます。



新任教員 紹介

- ① 学位 ② 研究テーマ(専門分野)
- ③ 千里金蘭大学での主な担当科目 ④ 千里金蘭大学での抱負

食物栄養学科



阿形 恒秀 教授

- ①修士(教育学)
- ②臨床教育学(生徒指導・教育相談)
- ③生徒指導
- ④子どもの成長を支える「優しくて厳しい教師」を共にめざします。



岡邑 衛 准教授

- ①修士(人間科学)
- ②教師教育(教育社会学)
- ③教職概論
- ④教職という素晴らしい職業に就けるよう、一緒に頑張りましょう。



崎山 晴彦 准教授

- ①博士(医学)
- ②生化学、栄養代謝学
- ③食品栄養学I
- ④マルチな才能を持った社会人になれるよう教育できればと考えています。

児童教育学科



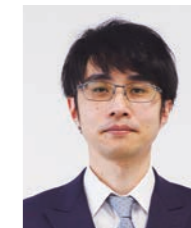
井上 裕樹 准教授

- ①修士(教育学)
- ②教育心理学・臨床心理学
- ③教育心理学
- ④皆さんと一日一日を主体的、積極的に積み重ねていければと思います。



中重 直俊 准教授

- ①修士(環境人間学)
- ②幼児教育学
- ③保育内容(環境)
- ④あそべる保育者をめざそう!



篠崎 祐介 講師

- ①博士(教育学)
- ②国語教育学
- ③国語科教育法
- ④これからの社会を担う子どもの言葉の学びを育む教育者の養成に努めます。

看護学科



青山 ヒフミ 教授

- ①修士(社会学)
- ②看護管理学
- ③看護管理特論
- ④看護職の多様なキャリア開発について、ともに探求していきましょう!



福嶋 教偉 教授

- ①博士(医学)
- ②重症心不全・移植・人工心臓・小児心臓外科
- ③救急救命学演習
- ④心技体を備えた医療人を目標に楽しく励みましょう。



上山 直美 准教授

- ①博士(保健学)
- ②地域における未就学児の父親や家族への育児支援
- ③母性看護援助論演習、地域母子保健
- ④何事も前向きに取り組む、学生や教職員の皆様との充実した時間を創っていきたくと思っています。



佐藤 文子 准教授

- ①博士(保健学)
- ②公衆衛生看護学・国際保健学
- ③公衆衛生看護方法論演習I
- ④人々の健康を支える保健師について、これから一緒に学んでいきましょう!



下吹越 直子 准教授

- ①博士(保健学)
- ②在宅看護学
- ③在宅看護援助論演習
- ④居室での看護を学生とともに考えていきたいです。



杉谷 美穂 助教

- ①修士(看護学)
- ②母性看護学
- ③母性看護援助論演習
- ④母性看護について皆さんと共に考える時間を大切にしたいと思っています。



堀川 真知子 助教

- ①修士(看護学)
- ②母性看護学
- ③助産診断技術学
- ④これまでの助産師経験を活かして探求し、学生の皆さんと共に学んでいきたいです。



穂迫 真由美 助手

- ①学士(看護学)
- ②看護技術
- ③基礎看護技術演習
- ④看護技術について学生の皆さんと学べることを楽しみにしています。